

## 平成22年3月期 第2四半期決算短信

平成21年11月2日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 シンプレクス・テクノロジー  
 コード番号 4340 URL <http://www.simplex-tech.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員  
 四半期報告書提出予定日 平成21年11月12日  
 配当支払開始予定日 —

(氏名) 金子 英樹  
 (氏名) 澤田 正憲

TEL 03-3278-6750

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成22年3月期第2四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第2四半期	6,449	19.4	1,073	11.7	1,072	17.2	609	15.6
21年3月期第2四半期	5,401	—	960	—	914	—	527	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第2四半期	1,111.27	1,076.29
21年3月期第2四半期	949.81	913.32

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第2四半期	8,422	4,639	54.5	8,360.17
21年3月期	8,545	4,152	48.2	7,497.13

(参考) 自己資本 22年3月期第2四半期 4,588百万円 21年3月期 4,114百万円

## 2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	0.00	—	260.00	260.00
22年3月期	—	0.00	—	—	—
22年3月期 (予想)	—	—	—	330.00	330.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

## 3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,500	21.4	3,030	20.1	3,000	20.8	1,810	52.2	3,297.68

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

#### 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無  
新規 一社 (社名 ) 除外 一社 (社名 )

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有  
詳細は、「定性的情報・財務諸表等」4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注)詳細は、「定性的情報・財務諸表等」4. その他をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第2四半期 589,955株 21年3月期 589,955株

② 期末自己株式数 22年3月期第2四半期 41,085株 21年3月期 41,085株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第2四半期 548,870株 21年3月期第2四半期 555,492株

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものであります。

予想には、様々なリスクや不確実性を内包しており、経済環境の変化等により、実際の業績はこれらの見通しから異なる結果となる可能性がありますので、この業績予想に全面的に依拠して投資等の判断を行うことは差し控え下さい。

## 定性的情報・財務諸表等

## 1. 連結経営成績に関する定性的情報

i. 当社の当第2四半期連結累計期間は、下記となりました。

連結売上高	6,449,329 千円	(前年同四半期比 19.4%増)
連結営業利益	1,073,359 千円	(前年同四半期比 11.7%増)
連結経常利益	1,072,203 千円	(前年同四半期比 17.2%増)
連結純利益	609,942 千円	(前年同四半期比 15.6%増)

当期経営成績の先行指標となる受注残高は、7,727,992千円(前年同四半期末比20.3%増加)です。

ii. 当第2四半期連結累計期間の連結経営成績については、下記の通りになります。

- 当第2四半期は、FX取引システムを中心としたインターネット取引システムの売上が牽引し、業績は売上高および利益ともに引き続き好調に推移しました。特にUMS(導入)の売上が、2,114,471千円(前年同四半期1,139,408千円)と増収に大きく貢献しました。また、継続型の収入であるUMS(サービス)の売上も、1,578,321千円(前年同四半期937,445千円)と大きく拡大し、安定した売上の柱として成長しています。その結果、連結売上高は6,449,329千円(前年同四半期5,401,611千円、前年同四半期比19.4%増)となりました。一方で、利益面においては、大証FX及びそれに関連するシステムに対する投資を中心として研究開発費を611,771千円(前年同四半期494,115千円)支出したことから、売上高の伸びに比べて利益の増加率が小さくなり、連結営業利益は1,073,359千円(前年同四半期960,730千円)となりました。
- 分野別の売上では、インターネット取引システムの売上高が対前年同四半期比で1.4倍以上となり大きく増加しました。特に、個人投資家向けを中心に大きく市場が伸びているFX取引システムについては、証券会社と顧客が直接取引を行うOTC取引に加えて、くりっく365や大証FXといった取引所取引までカバーしてサービスを提供しており、当該分野におけるトップシェアを誇るシステムとして強い競争力を保っていると認識しています。
- ディーリング分野においては、当期は大型案件はありませんでしたが、メガバンク向けを中心に安定的に売上を拡大することができました。メガバンクにおけるフロンティア領域へのIT投資は統合処理の進展に伴って好調に推移しており、今後も継続的な売上拡大を目指します。
- 当期より、システム請負開発契約の収益及び費用の計上基準を、検収基準から工事進行基準に変更しております。これに伴って、当第2四半期においては、売上高は644,230千円増加し、営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益はそれぞれ245,132千円増加しております。
- 売上高売上総利益率は、41.9%(前年同四半期42.3%)と安定的に推移しました。システムインテグレーションにおいては、当第1四半期に不採算案件が出た影響があり33.7%(前年同四半期40.8%)に低下しました。さらに、UMS(導入)に関しても、期初の想定どおり大証FX関連案件の初期開発部分の利益率が低下したことにより34.3%(前年同四半期44.1%)に低下しました。一方、継続収入となるUMS(サービス)は、インセンティブ収入が増加し56.0%(前年同四半期47.2%)と大きく利益率が改善しております。
- 販売費及び一般管理費が1,626,819千円(前年同四半期1,323,343千円)に増加しております。これは、研究開発費が611,771千円(前年同四半期494,115千円)に増加したことが主な要因です。また、業績拡大に伴って人件費などの各種コストが増加しており、この結果、売上高に対する販売費及び一般管理費の比率が25.2%(前年同四半期24.5%)に増加しています。
- 当第2四半期末における受注残高は7,727,992千円(前年同四半期末比20.3%増加)となり、当期の受注状況は順調に進捗しております。特に、新しい金融商品として注目されているCFD(差金決済取引)に対応した個人投資家向けインターネット取引サービス「SPRINT(スプリント)」CFD版の提供を開始し、大和証券に採用されるなど順調なスタートを切っています。さらに、当社として初めての取引所システムの構築となった大阪証券取引所の大証FXに関しても7月21日よりサービスを開始しており、今後は大証FXに参加する金融機関への接続システムに対する受注を拡大していきます。
- サブプライム問題に端を発する金融市場の混乱の影響につきましては、受注高は依然として好調に推移しており当期の受注活動への影響は限定的と考えております。しかし、今後受注高に影響が生じる可能性があることを認識し、来期以降の金融機関のIT投資動向を注視し、積極的な提案活動等による案件の掘り起こしを進めます。

## ① 売上の製品種類別の概況

	前年同四半期		当第2四半期		増減(千円)
	売上(千円)	利益率(%)	売上(千円)	利益率(%)	
システムインテグレーション	2,047,545	40.8%	1,908,764	33.7%	△138,781
システム保守	783,239	54.3%	801,355	50.2%	18,116
UMS(導入) *1	1,139,408	44.1%	2,114,471	34.3%	975,063
UMS(サービス)	937,445	47.2%	1,578,321	56.0%	640,875
その他 *2	493,973	16.0%	46,417	100.0%	△447,555
総合計	5,401,611	42.3%	6,449,329	41.9%	1,047,718

\*1 UMSとは、Universal Market Serviceの略で、顧客の収益等にリンクした形の契約となっているサービス全般を指します。

\*2 大半がハードウェアなどの物品販売によるものであります。当第1四半期より手数料部分のみ売上に計上しております。

## ② 売上の分野別の概況

	前年同四半期売上(千円)	当第2四半期売上(千円)	増減(千円)
ディーリングシステム	1,828,287	1,937,629	109,341
CRM/SFAシステム	137,534	45,029	△92,504
インターネット取引システム	2,941,816	4,135,253	1,193,437
その他	493,973	331,417	△162,555
計	5,401,611	6,449,329	1,047,718

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

## i 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、8,422,354千円(対前連結会計年度末比123,308千円減少)となりました。主に借入金の返済およびコンピュータ関連機器(器具備品)の取得やオフィス移転に伴う敷金保証金の差入れにより、現金及び預金が853,431千円減少したことによるものです。

また、負債合計は、3,782,855千円(対前連結会計年度末比610,770千円減少)となりました。主に未払金が402,147千円、買掛金が276,620千円、長期借入金が250,000千円減少し、賞与引当金が218,726千円増加したことによるものです。

また、純資産合計は4,639,498千円(対前連結会計年度末比487,461千円増加)となり、自己資本比率は54.5%(前連結会計年度末は48.2%)と改善しました。自己資本比率は依然として高く、安定的な財務バランスを保っていると分析しております。

## ii キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、営業活動によるキャッシュ・フローは増加しましたが、投資活動および財務活動によるキャッシュ・フローが減少したことにより、前連結会計年度末に比べ853,431千円減少し、2,102,295千円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、167,005千円の資金取得(前年同四半期555,652千円の資金使用)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益を1,023,128千円、減価償却費を223,301千円計上したことや、たな卸資産が307,573千円減少したことから資金を得たこと、その一方で、営業未収入金の増加額644,230千円および、未払金・未払費用の減少額427,772千円、法人税等の支払額471,074千円による資金の減少を反映したものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、627,361千円の資金使用(前年同四半期433,165千円の資金使用)となりました。これは主に、有形固定資産の取得291,802千円、無形固定資産の取得134,893千円、敷金及び保証金の差入200,665千円による資金の減少を反映したものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、387,937千円の資金使用(前年同四半期431,126千円の資金使用)となりました。これは主に、長期借入金返済として250,000千円、配当金支払として141,964千円が発生したことによる資金の減少を反映したものです。

## 3. 連結業績予想に関する定性的情報

## (1) 業績予想

平成21年5月12日に発表した平成22年3月期の業績予想に変更はありません。

## (2) 受注残高(連結ベース)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	受注残高		うち当期売上計上予定分	
	百万円	%	百万円	%
平成22年3月期第2四半期	7,727	(20.3)	4,868	(10.9)
平成21年3月期第2四半期	6,421	(24.8)	4,389	(19.0)
(参考)平成21年3月期	6,438	(14.8)	—	—

(注)1. 保守等の継続契約については、1年以内に売上が計上されることが確実な受注のみを受注残高としております。

2. UMS(サービス)売上につきましては、通常、固定売上+インセンティブ売上となっておりますが、固定売上部分のみを受注残高としております。

3. 当期売上計上予定につきましては、「当期末までに検収する予定の売上」と「来期以降に検収する予定の進行基準売上」が見込まれますが、上記では「当期末までに検収する予定の売上」のみを当期売上計上予定分としております。

4. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## 4. その他

## (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

## (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

法人税等の計上基準については、法定実効税率をベースとした年間予測税率により計算しております。

## (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

## ・システム請負開発契約に係る収益及び費用の計上基準

システム請負開発契約に係る収益及び費用の計上基準については、従来、システムの検収をもって売上及び費用に計上するいわゆる検収基準を採用しておりましたが、当期より「工事契約に関する会計基準」(企業会計基準第15号 平成19年12月27日)及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日)を適用し、当該基準に合致したプロジェクトについては工事進行基準を採用しております。

これにより、従来の会計処理基準を適用した場合と比べて、売上高は644,230千円増加し、営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益は245,132千円増加しております。

5. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,102,295	2,955,727
売掛金	1,348,213	1,386,801
未収入金	644,230	—
仕掛品	274,021	581,594
繰延税金資産	168,000	168,000
その他	219,703	161,008
貸倒引当金	—	△7,559
流動資産合計	4,756,463	5,245,571
固定資産		
有形固定資産	828,227	761,087
無形固定資産	250,171	157,570
投資その他の資産		
投資有価証券	1,438,105	1,431,032
長期前払費用	99,959	94,825
敷金及び保証金	828,447	628,877
保険積立金	2,039	2,039
繰延税金資産	135,129	140,849
その他	83,810	83,810
投資その他の資産合計	2,587,491	2,381,433
固定資産合計	3,665,890	3,300,091
資産合計	8,422,354	8,545,662
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	598,496	875,116
短期借入金	504,027	500,000
未払金	275,813	677,961
未払費用	31,767	56,650
未払法人税等	476,655	534,544
前受金	256,663	113,019
賞与引当金	218,726	—
役員賞与引当金	68,352	—
その他	52,352	86,333
流動負債合計	2,482,855	2,843,626
固定負債		
長期借入金	1,300,000	1,550,000
固定負債合計	1,300,000	1,550,000
負債合計	3,782,855	4,393,626

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	368,480	368,480
資本剰余金	316,900	316,900
利益剰余金	5,529,834	5,062,597
自己株式	△1,673,086	△1,673,086
株主資本合計	4,542,129	4,074,892
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	50,179	41,949
為替換算調整勘定	△3,660	△1,889
評価・換算差額等合計	46,519	40,059
新株予約権	50,804	37,038
少数株主持分	45	45
純資産合計	4,639,498	4,152,036
負債純資産合計	8,422,354	8,545,662

(2) 四半期連結損益計算書  
(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
売上高	5,401,611	6,449,329
売上原価	3,117,537	3,749,151
売上総利益	2,284,074	2,700,178
販売費及び一般管理費	1,323,343	1,626,819
営業利益	960,730	1,073,359
営業外収益		
受取利息及び配当金	11,396	16,827
雑収入	430	1,762
営業外収益合計	11,827	18,590
営業外費用		
支払利息	10,157	14,449
為替差損	252	2,167
持分法による投資損失	47,096	2,448
雑損失	222	680
営業外費用合計	57,728	19,746
経常利益	914,830	1,072,203
特別利益		
貸倒引当金戻入額	—	7,559
特別利益合計	—	7,559
特別損失		
事務所移転費用	—	11,249
固定資産除売却損	956	40,957
投資有価証券評価損	—	4,427
特別損失合計	956	56,634
税金等調整前四半期純利益	913,873	1,023,128
法人税、住民税及び事業税	386,259	413,185
四半期純利益	527,614	609,942

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	913,873	1,023,128
減価償却費	118,226	223,301
貸倒引当金の増減額(△は減少)	—	△7,559
投資有価証券評価損益(△は益)	—	4,427
受取利息及び受取配当金	△11,396	△16,827
支払利息	10,157	14,449
為替差損益(△は益)	613	3,367
持分法による投資損益(△は益)	47,096	2,448
有形固定資産除売却損益(△は益)	956	35,203
無形固定資産除却損	—	5,753
無形固定資産償却費	32,273	—
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	52,000	68,352
賞与引当金の増減額(△は減少)	256,300	218,726
売上債権の増減額(△は増加)	△785,157	38,588
未収入金の増減額(△は増加)	—	△644,230
たな卸資産の増減額(△は増加)	△150,168	307,573
仕入債務の増減額(△は減少)	116,514	△276,620
未払金及び未払費用の増減額(△は減少)	△547,134	△427,772
前受金の増減額(△は減少)	△139,561	143,644
その他	8,462	△80,252
小計	△76,943	635,702
利息及び配当金の受取額	11,396	16,827
利息の支払額	△10,157	△14,449
法人税等の支払額	△479,948	△471,074
営業活動によるキャッシュ・フロー	△555,652	167,005
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△182,272	△291,802
無形固定資産の取得による支出	△31,524	△134,893
投資有価証券の取得による支出	△30,000	—
敷金及び保証金の差入による支出	△187,327	△200,665
長期前払費用の取得による支出	△1,750	—
その他	△291	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△433,165	△627,361
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	825,000	4,027
短期借入金の返済による支出	△325,000	—
長期借入れによる収入	500,000	—
長期借入金の返済による支出	△225,000	△250,000
株式の発行による収入	6,382	—
自己株式の取得による支出	△1,090,000	—
配当金の支払額	△122,508	△141,964
財務活動によるキャッシュ・フロー	△431,126	△387,937
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,180	△5,138
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,421,124	△853,431
現金及び現金同等物の期首残高	2,781,941	2,955,727
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,360,816	2,102,295

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

当第2四半期連結累計期間において、当社グループはすべて同一セグメントである情報サービス業に属するシステム受託開発、パッケージ商品、これらに伴う保守作業を行っております。

よって、当該事業以外に事業の種類がないため該当事項はありません。

〔所在地別セグメント情報〕

当第2四半期連結累計期間において、本邦の売上高及び資産の金額は、全セグメントの売上高及び全セグメントの資産の金額の合計額に占める割合がいずれも90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

〔海外売上高〕

当第2四半期連結累計期間において、海外売上高は、いずれも連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

## 6. その他の情報

## 生産、受注及び販売の状況

## (1) 生産実績

当第2四半期連結累計期間の生産実績を製品の種類別に示すと、次のとおりであります。

製品種類別	当第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)	
	金額(千円)	前年同四半期比 (%)
システムインテグレーション (千円)	1,232,653	85.2
システム保守 (千円)	399,376	111.6
UMS (導入) (千円)	1,094,517	205.0
UMS (サービス) (千円)	691,645	136.9
合計 (千円)	3,418,193	104.6

- (注) 1. 金額は製造原価によっております。  
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
3. その他については、生産を行っておりませんので該当ありません。

## (2) 受注状況

当第2四半期連結累計期間の受注実績を製品の種類別に示すと、次のとおりであります。

製品種類別	当第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)			
	受注高 (千円)	前年同四半期比 (%)	受注残高 (千円)	前年同四半期比 (%)
システムインテグレーション	2,517,801	122.5	1,504,947	87.4
システム保守	814,277	88.9	1,591,580	104.4
UMS (導入)	2,053,938	258.7	1,358,607	181.3
UMS (サービス)	2,515,953	167.6	3,181,942	177.1
その他	△163,254	△17.2	90,914	14.5
合計	7,738,716	124.5	7,727,992	120.3

- (注) 1. 保守等の継続契約については1年以内に売上が計上されることが確実な受注のみを受注残高としております。  
2. 金額は販売価格によっております。  
3. UMS (サービス)につきましては、通常、固定売上+インセンティブ売上となっておりますが、固定売上部分のみを受注残高としております。  
4. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
5. 当期より、その他について手数料部分のみを計上するネットティング処理を実施しているためその他の受注高がマイナスとなっております。

## (3) 販売実績

当第2四半期連結累計期間の販売実績を製品の種類別に示すと、次のとおりであります。

製品種類別	当第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)	
	金額(千円)	前年同四半期比 (%)
システムインテグレーション (千円)	1,908,764	93.2
システム保守 (千円)	801,355	102.3
UMS (導入) (千円)	2,114,471	185.6
UMS (サービス) (千円)	1,578,321	168.4
その他 (千円)	46,417	9.4
合計 (千円)	6,449,329	119.4

- (注) 1. 金額は販売価格によっております。  
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
3. 当期より、その他の販売実績は手数料部分のみを計上しております。